

孤独・孤立をアートの視点から考える アートプロジェクト「ある日」

私たちの中には、社会との接点をうまく構築できず孤独・孤立している（と感じている）人がいます。そうした人たちとともにあることをアートの観点から考えるプロジェクトを大和市・海老名市・座間市・綾瀬市が連携して実施します。

今、福祉的な支援を受けていなくとも、生きていくことに困難さを感じる人たちはたくさんいます。自然環境や他の生き物と同じように、人間の心や体も、本来は日々、あるいはこの瞬間にも移ろいゆくものです。しかし、社会の発展とともに、“ふつう”の生き方や“当たり前”の働き方が定まり、そこから外れる人たちの居場所が、どんどんなくなってきました。

本プロジェクトでは、アーティストの協力のもと、ワークショップや美術作品の展示を行う他、シンポジウムを開催します。展覧会では、相談支援を利用する人と、支援に携わる人たちが、飯川雄大、金川晋吾、キュンチョメという三組のアーティストとともに過ごした「ある日」の記録と、そのなかから生まれた表現を中心に構成します。支援する人／される人、表現する人／見る人といった境界を越え、そして社会に決められた役割とは関係のない自分を発見する時間を、アートはつくることができます。

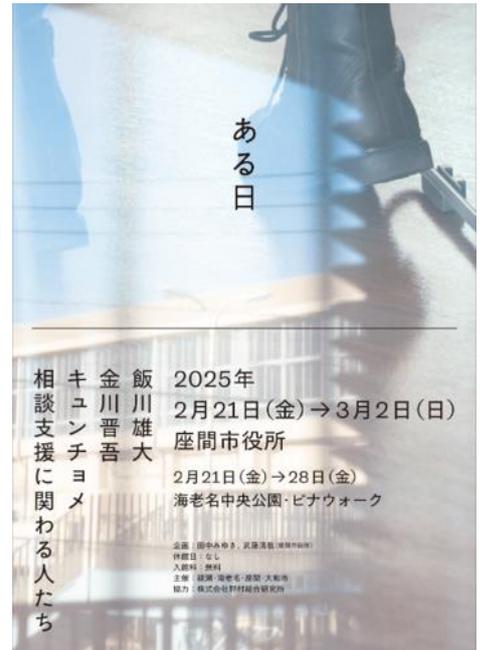
誰かにとって何でもない一日が、他の誰かにとっては、その後に何度も立ち戻りたくなる一日になることがあります。ある日を通してさまざまに現れる参加者の姿や表現を通して、ふだん考えることのない自分や他人、世界とのつながりを見つめてみませんか。

つきましては、2月22日(土)に企画者によるギャラリーツアーを開催いたします。ご多用とは存じますが、ぜひご取材くださいますようお願いいたします。

記

「ある日」ギャラリーツアー

- 日時 : 2025年2月22日(土) 14:00-15:00
- 集合場所 : 座間市市役所
- 解説者 : 田中みゆき、武藤清哉 (座間市)



開催概要

アートプロジェクト「ある日」

(内閣府 地方版孤独・孤立対策官民連携プラットフォーム推進事業)

主催：座間市・大和市・海老名市・綾瀬市

企画：田中みゆき

ウェブサイト：<https://littlebarrel.net/post/771710492938059776/>



展覧会「ある日」

◆会期：

(1) 2025年2月21日(金)～3月2日(日) 9:00-17:00

(2) 2025年2月21日(金)～28日(金) 9:00-17:00

◆会場：

(1) 座間市役所(神奈川県座間市緑ヶ丘一丁目1番1号)

(2) 海老名中央公園・ビナウォーク

◆参加作家：

飯川雄大、金川晋吾、キュンチョメ、相談支援に関わる人たち

◆アクセス：

(1) 小田急小田原線「相武台前駅」下車徒歩15分

(2) 小田急小田原線「海老名駅」下車徒歩5分

展示内容：会場(1) 三組のアーティストの作品展示及び金川晋吾とキュンチョメによるワークショップ

参加者の作品や記録展示(2) 飯川雄大とワークショップ参加者の作品展示

関連イベント

シンポジウム「孤独・孤立にアートができること」

日時：2月21日(金) 第一部：13:00-14:30、第二部：15:00-17:00 開場 12:30

開場 12:30、入場自由(先着順)、UDトークによる文字支援あり

◆会場：大和市保健福祉センター(大和市鶴間1-31-7)

◆第一部 「孤独・孤立とアートの力」

●登壇者

大西 連（内閣府孤独・孤立対策推進室政策参与、認定 NPO 法人自立生活サポートセンター・もやい理事長）

鈴木康広（現代美術作家）（令和5年度同プロジェクト参加アーティスト）

西原 珉（秋田市文化創造館長、東京藝術大学美術学部准教授、心理療法士）

◆第二部 「孤独・孤立支援における広域／多職種連携の必要性」

●登壇者

奥田知志（NPO法人抱樸理事長）

田中みゆき（キュレーター、プロデューサー）

室井舞花（一般社団法人ひきこもりUX会議理事）

●ファシリテーター 大西 連

参加アーティストプロフィール

飯川雄大（いいかわ・たけひろ）

1981年兵庫県生まれ。現在、神戸を拠点に活動。2007年より〈デコレータークラブ〉の制作を開始。鑑賞者が作品に関わることで変化していく物や空間が、別の場所で同時に起こる事象と繋がる《0人もしくは1人以上の観客に向けて》（2019年～）や、全貌を捉えきれない大きな猫の立体作品《ピンクの猫の小林さん》（2016年～）などを制作。主な個展に、「同時に起きる、もしくは遅れて気づく」（彫刻の森美術館、2022年）、「つくりかけラボ04



|0人もしくは1人以上の観客に向けて」（千葉市美術館、2021年）、主なグループ展に『感覚の領域 今、「経験する」』（国立国際美術館、2022年）、「ヨコハマトリエンナーレ 2020」（横浜美術館・PLOT48、2020年）などがある。

金川晋吾（かながわ・しんご）

1981年京都府生まれ。自身の親族や同居人など、身近な人々やその生活を撮影し、自己と他者の関係性を探る作品を手がける。写真には日記やテキストを添え、言葉での表現も精力的におこなう。おもな著作に2016年『father』（青幻舎）、2023年『長い間』（ナナルイ）、『いなくなっていない父』（晶文社）、2024年『祈り／長崎』（書肆九十九）、『明るくていい部屋』（ふげん社）など。主な展覧会に、2018年「長い間」（横浜市民ギャラリーあざ



み野)、2022年「六本木クロッシング 2022 展：往来オーライ！」(森美術館)、2024年「祈り／長崎」(MEM)などがある。

キュンチョメ

ホンマエリとナブチのアートユニット。2011年の東日本大震災を機に結成。芸術は「新しい祈りの形」であると捉え、世界各地で、詩的でユーモラスな作品を制作している。近年の主な展覧会に「六本木クロッシング 2022：往来オーライ！」(森美術館 東京)、「現在地：未来の地図を描くために [1]」(金沢 21 世紀美術館、2019 年)、「あいちトリエンナーレ 2019」(愛知)などがある。



企画者 プロフィール

田中みゆき (たなか・みゆき)

キュレーター／プロデューサー。「障害は世界を捉え直す視点」をテーマに、カテゴリーにとらわれないプロジェクトを企画。表現の見方や捉え方を鑑賞者とともに再考する。2022年ニューヨーク大学障害学センター客員研究員。主な仕事に、「ルール?展」(21_21 DESIGN SIGHT、2021年)、「音からつくり、音で遊ぶ。わたしたちの想像・創造を刺激する『オーディオゲームセンター + CCBT』」(シビック・



クリエイティブ・ベース東京、2024年)など。主な書籍に、『誰のためのアクセシビリティ?』(リトルモア)、『ルール?本 創造的に生きるためのデザイン』(共著、フィルムアート社)がある。

参考画像 (ワークショップ展示は新作となるため、貸出画像はありません)



Kids meet 04 飯川雄大「デコレータークラブ | 0人もしくは1人以上の観客に向けて」より 主催：東京都渋谷公園通りギャラリー (2024年) 撮影：前谷 開



「つくりかけラボ 04 デコレータークラブ
| 0人もしくは1人以上の観客に向けて」
千葉市美術館（2021年）撮影：飯川雄大



神戸大学人間発達環境学研究科の学術 Weeks 2024 で開催したワークショップ「0人もしくは1人以上の観客に向けて」の様子（2024年2月） 撮影：飯川雄大



金川晋吾『長い間』より 撮影：金川晋吾



キュンチョメ《金魚と海を渡る》2022年